



木曾に暮らす

Live in "Kiso"

木曾郡移住促進ガイド2018



理想の暮らしは
すべて山の中にある。



信州“木曾”は、こんなところです。

西に御嶽山、東に木曾駒ヶ岳を仰ぎます。木曾川本・支流の深い渓谷と、木曾檜をはじめとする優良な材を産む森林に抱かれ、中山道の歴史・伝統文化を慈しみながら、人々は暮らしてきました。四季の移ろいを肌で感じられる日常が待つ「木曾暮らし」へ、皆さんをお誘いします。木曾郡6町村に各地から移住され、それぞれの暮らしを充実させている方々の紹介、そしてこれから移住を考える皆さんに役立つ情報を掲載しましたので、ぜひ参考にしてください。「理想の暮らしはすべて山の中にある。」木曾の豊かな自然をキャンバスに、あなたらしい人生を描いてみませんか？

山麓の観光産業



木曾町／木曾馬(開田高原)

伝統の林業



上松町／赤沢自然休養林

豊富な水資源



大桑村／阿寺溪谷

木曾郡マップ

木曾郡は長野県の南西部に位置します。6町村で構成され、南北を貫くように走る国道19号とJR中央本線が、木曾地域と都市部をつないでいます。



豊かな農耕地

木祖村／御嶽はくさいの畑



スノーレジャー

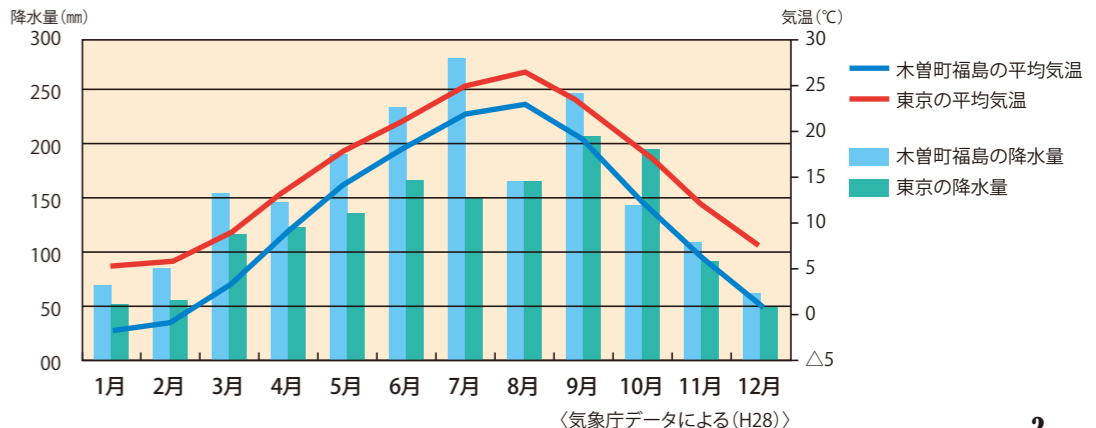
王滝村／スキー場



古の街並み

南木曾町／妻籠宿

東京と木曾地域(木曾町福島)の気象データ比較

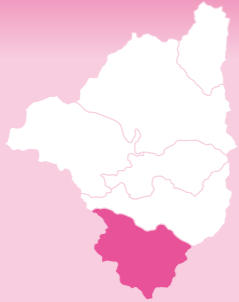


なぎそまち

南木曾町



人口:4,091人
1,649世帯
(平成30年1月1日現在)
面積:215.93km²



伝統の街並みを守り続ける町。 関西圏へのアクセスも良好。

「なぎそまち」は長野県木曾郡の南端に位置する県境にある町です。緑豊かな山々と、木曾川とその支流が織りなす豊かな自然に加え、旧中山道、妻籠宿をはじめとする多くの歴史遺産に恵まれた町です。隣接する岐阜県や更に愛知県までが生活圏となっていて、田舎過ぎない田舎暮らしが魅力となっています。



南木曾町中心部 手前には重要文化財「桃介橋」が見える

生活交通環境



主な交通手段は車です。町内を巡回する地域バスが運行しています。

最寄りのJR駅「十二兼駅」「南木曾駅」「田立駅」

◆「南木曾駅」には発着する特急列車あり。

移住相談窓口:南木曾町役場 もっと元気に戦略室

TEL 0264-57-2001 (代表) FAX 0264-57-2270

〒399-5301 長野県木曾郡南木曾町読書3668番地1

Email genki-senryaku@town.nagiso.nagano.jp

http://www.town.nagiso.nagano.jp



通年多くの観光客が訪れる「妻籠宿」



三百年の歴史を誇る田立地区五宮神社の「花馬祭り」神馬には木曾地域にのみ生息する木曾馬が立てられる

定住者・移住者への支援事業など

●皆さんの暮らしを応援します!

南木曾町はこんなことをやっています。

- 切れ目ない子育て支援
 - 高校生まで医療費無料
 - 保育園料補助制度
 - 保育園給食費無料
 - 放課後こども教室による小学生預かりサービス
 - 中学生学力支援(検定試験助成)
 - インフルエンザ予防接種中学3年・高校3年無料化
 - …など各種支援策を展開して子育て世帯を応援しています。
- 住環境を整備確保
 - 若い人向けの町営住宅を順次建設
 - 空き家紹介、住宅リフォーム補助制度
- 通信網の整備
 - 高速ブロードバンド(光化)を町内全戸に計画中
- 地域の和を大切に
 - 町内各地では7つの公民館と行政区活動など、人と人とのコミュニティー活動が行われています。

← 詳細は、左記相談窓口までお問い合わせください。

地域の伝統産業の
未来を担って…。



細川 康平さん

東京都出身。2017年春、木を相手にする仕事を求めて同町に移住。現在町の伝統工芸品「ろくろ細工」の見習い職人として、技の研鑽に励んでいる。

木地師の里、南木曾町漆畑の工芸所で、細川康平さんは日々木と向き合っています。

生まれ育った東京で工務店に勤めていたこともある細川さんには、いつかもっと深く木に関わる仕事がしてみたいという思いがありました。そんな細川さんが出会ったのが、南木曾町が「地域おこし協力隊員」募集の中で、特に地域伝統の木工芸を継いでくれる人材を求めているという情報でした。それに応募し、歴史あるろくろ工芸の世界に飛び込んだ細川さん、親方からその技を教えてもらいながら、任されたバターナイフや箸立ての制作に励んでいます。

「例えばバターナイフですが、形は決まっているものの、刃先のデザインや厚さ等は自分で変えさせてもらえます。どういうデザインにしようかと考えながら作り、それが店頭で並ぶ時のワクワク感。そして売れたときの嬉しさ!もっといいものを作ろうって励みになりますよね。」



都会から木曾への移住をきっかけに出会った伝統の木工職人の仕事に、今大いにやりがいを感じている細川さんです。

「木の中にある色や木目といった表情の美しさ、様々な木が持つ個性にとっても魅かれています。その個性を活かした製品を、いつかはこの手から生み出したいです。」

また、木曾へ移住を考えている人に向け、地域おこし協力隊員として常に地元を意識しながら暮らしている細川さんから、こんなアドバイスをいただきました。

「ここに来た頃はすべての皆さんに対してはじめて、でしたから、まず顔と名前を覚えてもらうために、地区の常会や祭りなどにできるだけ参加してきました。近所付き合いの濃さに最初は驚きましたが、皆さん温かいです。ですからアドバイスは、地域の集まりには進んで顔を出しましょう!、ですね。」



おおくわむら

大桑村



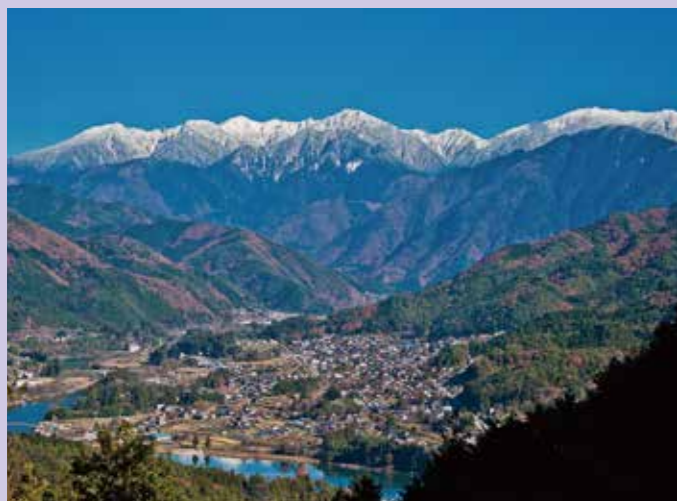
人口:3,674人
1,526世帯
(平成30年1月1日現在)
面積:234.47km²



美しい清流と豊かな森林。 木工業と機械工業が共存する村。

大桑村は長野県の南西部に位置し、村の中央部を木曾川・国道19号・JR中央本線が並行して走り、中央アルプスからの清流と村土の9割以上を占める森林に囲まれた豊かな緑と清流の恩恵を受けてきました。

だれもが健康で、郷土に誇りを持って暮らすことができる、「住んで良かった」と実感できる村づくりを進めています。



大桑村全景 奥に連なるのは「中央アルプス(木曾山脈)」

生活交通環境



主な交通手段は車です。村営のコミュニティバスが村内を巡回しています。
最寄りのJR駅「須原駅」「大桑駅」「野尻駅」

移住相談窓口:大桑村役場 総務課 企画係

TEL 0264-55-3080(代表) FAX 0264-55-4134

〒399-5503 長野県木曾郡大桑村長野2778

<http://www.vill.ookuwa.nagano.jp>



春に満開となるハナモモ(三色桃)の並木



のぞきど森林公園から見える満天の星空

定住者・移住者への支援事業など

●空き家情報バンク

村内の賃貸・売却できる物件を所有者から登録いただき、村ホームページで情報提供しています。

●木造・住宅新增改築補助

村に住所がある人または建築後に村に住所を有することになる人が、従来工法等により木造住宅等を新築または全面改築する費用や内外装の改修・浴室・台所などの増改築のための費用を一部補助します。空き家改修補助もあります。

●おためし居住体験

村での生活を一定期間体験してもらう「おためし居住体験」を行っています。村ホームページ等で参加者を募集します。興味のある人(ご家族)はご応募ください。

●子育て支援など

入園前の子どもの遊び場、親同士の交流の場として子育て支援センターを開設しています。小学校の放課後や長期の休みに、児童が安心して過ごせる場として、放課後子ども教室を実施しています。妊娠から産後1年までの医療費無料、各種検診などの費用やインフルエンザ予防接種への助成を行っています。保育料の第2子半額免除・第3子全額無料や給食費の無料化、「すこやか子育て応援祝金」を出産時・小中学校入学時に支給しています。

●大桑まめな村宣言

村民が地域に愛着を持ち「まめ(元気や健康を意味するこの地方の方言)」で自分らしく過ごせるよう、食育や食生活の改善・各種健康講座など開催しています。

←詳細は、左記相談窓口までお問い合わせください。

私は田舎生まれの都会育ち。
娘はその逆になりますね。



金田 亮・英里さんご夫妻

平成28年に大桑村に移住。英里さんのお母さんの実家がある故郷だが、亮さんにとってはまったく新たな地での暮らしのスタートとなった。

そうおっしゃるのは奥さんの金田英里さんです。英里さんのお母さんが里帰り出産だったので英里さんは木曾で生まれましたが、その後育ったのは東京でした。一方ご夫妻の間で愛くるしい表情を浮かべる娘の季歩(きほ)ちゃんは、東京で生まれて間もなくで移住してきましたから、都会生まれの田舎育ちということになります。

「逆ですよ。でも木曾の自然の中でこの子が成長していけるのは嬉しいです。」

英里さんのご両親は東京で長く暮らしてきましたが、いつかは故郷木曾へ帰って実家を継ごうと考えていたそうです。それは英里さんも同じで、いつか大桑村へという思いがありました。結婚相手の亮さんもその思いに賛同、移住計画はスムーズに決まっていたそうです。ただ移住の順番は、ご両親が先ではなく、亮さん英里さん夫婦が先になりました。30代半ばの亮さんの就職の事を考え年齢的に少しでも早い方がいい、という判断です。こ

こら辺のタイミングの計り方も移住を考える皆さんにとってはポイントとなりそうですね。亮さんは大桑村内にある車両用過給機製造を行う企業に就職、仕事を覚えるのに心血を注ぎつつ、新たな住処となったこの村に一日でも早く溶け込もうと、地区の集会や祭りの準備などに積極的に参加しているそうです。

初めての子育てと移住の時期が重なって大変だったのかと思いきや、お二人にとってはかえってそれが良かったのだとか。

「大桑村には未就園児とその親を対象にした『まめっこ』という子育て支援があって、知り合いづくりやイベント参加を子どもと一緒にできるのでとてもありがたいです」と英里さん。まめっこを通じて夫婦それぞれママ友やスポーツ仲間も増やしているそうで、季歩ちゃんは、パパとママが地域に馴染むためにおおいに貢献しているようです。



あげまつまち

上松町



人口:4,447人
1,822世帯
(平成30年1月1日現在)
面積:168.42km²



森林浴発祥の郷で、 明るく元気な町ぐらし。

森林浴発祥の地として知られる「赤沢自然休養林」や、国の名勝である「寝覚の床」を有する風光明媚な上松町。四季折々に催される伝統ある祭りや、豊かな自然にはぐくまれた食材をふんだんに盛り込んだ郷土の味、人々と触れ合いながら自然に寄り添う暮らしがあります。



「赤沢自然休養林」では森林鉄道に体験乗車できる

生活交通環境



主な交通手段は車です。近隣の町村を結ぶ路線バスの他、町内のコミュニティバスも運行しています。最寄りのJR駅「上松駅」「倉本駅」

移住相談窓口:上松町役場 企画財政課 企画政策係

TEL 0264-52-4801 (直通) FAX 0264-52-2150

〒399-5603 長野県木曾郡上松町駅前通り2-13

<http://www.town.agematsu.nagano.jp>



国の名勝「寝覚の床」には、浦島太郎の伝説が残る



例年5月に行われる伝統行事「駒ヶ岳神社例祭 太々神楽」



日本最高峰の神社といわれる「伊勢神宮」に奉納する御用材として、上松町の木曾ひのきが使われています。上松町には、良質な木材を納めるための知恵と技が古くから伝えられてきました。

定住者・移住者への支援事業など

●安心して子供を育てられる町

出産祝い金をはじめ、18歳未満までの医療費無料化支援など子育て支援策が充実しています。

●空き家バンクの活用

近年多くなってきている空き家対策として、移住を考えている方に積極的に情報提供をしています。

●地域おこし協力隊制度の活用

当町に興味があり、意欲を持って活動できる地域おこし協力隊員を募集しています。現在3名の隊員に活動していただいておりますが、さらに町で起業を目指す方など地域に定着していただける方を募集しています。

← 詳細は、左記相談窓口までお問い合わせください。

自然素材でものづくりが
したかったんです。



二宮 大輔さん (左は奥さんの美香さん)

平成28年度に長野県上松技術専門校を卒業後上松町に定住し、自宅を兼ねる木工房を起業、無垢の木材を使用したオーダー家具や小物の製作をしている。

「工房は「^{つばい}椿井木工舎」と名付けました。ドイツ語で数字の2を意味するのがZwei (ツヴァイ)。二宮の二、夫婦二人での二、です。」

そう話す大輔さんは佐賀県、奥さんの美香さんは愛知県名古屋市のご出身です。木工を目指す前の大輔さんの職業は、自動車のデザインを粘土で模型(クレイモデル)に起こすカーモデラー。その仕事をしていて愛知県で美香さんと出会い結婚しました。仕事は楽しかったものの、やがて大輔さんの心に木工への想いが募っていきます。

「私の実家が有田焼の窯元をやっていて、子供の頃からものづくりを生業にしたいという想はずっとありました。でも焼成によって作られる陶器や磁器って実は土に還らないんです。クレイモデルで使用する粘土も化学素材。だから、土に還る自然の材料でものづくりをしたいなって。それで木工。そして木工を学ぶために、長野県上松技術専門校へ入校したんです。」

しかも二宮さんは入校前にすでに卒業後工房を開くことを決めていました。

開業資金を貯め、工房も兼ねられる家を夫婦で探すと、二人三脚で計画的な木曾移住を進めていったのです。

家の大家さんは元大工の棟梁。もう何年も使われなくなっていた作業場を、二人で協力して改修整備し、工房へと生まれ変わらせた。

美香さんは、地域に馴染みながら大輔さんの後押しにもなればと、上松町の地域おこし協力隊員として活動しています。

「地元を知らないままここで工房を開くことはできないと思ったんです。地域のことを知りたい、人にも会いたい、私が顔を広めてくるねって活動しています。皆さん、畑のものや山菜を持ってきてくれたりして。嬉しいですよね。」

木曾の最大の魅力はやはり“人”…そうおっしゃるお二人も、今“木曾の人”としての一步一步を踏みしめ仲良く歩んでいます。

おや?もしかすると、^{つばい}椿井=Zweiの「2」って、第二の故郷も意味してる?



木曾町

きそまち



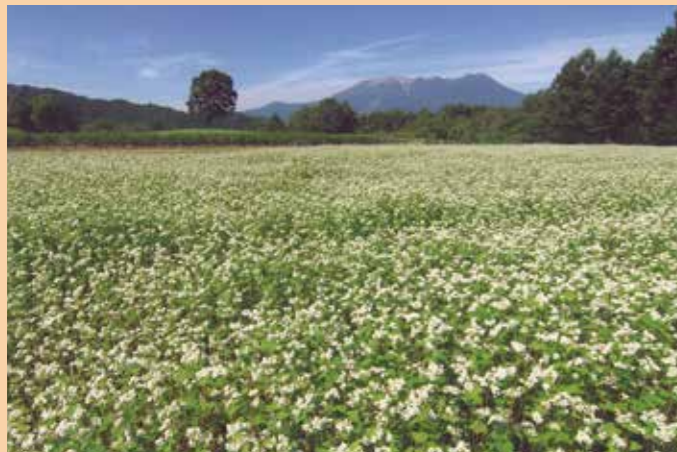
人口:11,252人
4,840世帯
(平成30年1月1日現在)
面積:476.03km²



木曾郡最多人口の町。 広大な自然と伝統文化の共存。

木曾町は標高3,067mの木曾御嶽山と標高2,956mの中央アルプス木曾駒ヶ岳に囲まれ、中央に木曾川が流れる自然豊かな文化と歴史の町です。御嶽山の裾野には開田高原が広がり本土では唯一の在来馬木曾馬が生息しています。

福島宿や宮ノ越宿で知られる中山道の古い街並みが残り、地酒や塩を使わないお漬物のすんき等の食文化もとても豊かな町です。



開田高原そば畑より霊峰御嶽山を望む

生活交通環境



主な交通手段は車です。近隣の町村を結ぶ路線バスの他、町内のコミュニティバスも運行しています。
◆東京都新宿行き的高速バスが1日2往復運行中。
最寄りのJR駅「木曾福島駅」「原野駅」「宮ノ越駅」
◆「木曾福島駅」には特急列車が発着。

移住相談窓口:木曾町役場 観光交流課

TEL 0264-22-4285(直通) FAX 0264-23-2121

〒397-8588 長野県木曾郡木曾町福島2326番地6
Email kanko@town-kiso.net

http://www.town-kiso.com



▲冬季の人気イベント「雪灯りの散歩路」



◀年に一度の「水無神社例大祭」で行われる「神輿まくり」は、全国でも類を見ない奇抜な神事として知られます

定住者・移住者への支援事業など

●木曾町若者定住祝金

木曾町に定住意思のある方にお祝い金を支給します。独身または夫婦5万円、独身または夫婦で子どもと転入してきた場合7万円

対象:木曾町に定住し5年以上の定住意思のある方
18歳以上40歳未満の方 等

●空き家住宅活用事業補助金

移住者が木曾町に所在する空き家等を改修して定住する場合、その移住者に対して費用の一部を補助します。住宅改修工事、下水道接続工事等の経費の1/2以内限度額100万円

●子育て住環境整備の補助

町内で多世代同居、近居をしようとする子育て世帯を支援します。町の住宅整備補助の他に50万円、住宅の新築、増改築が対象

●新規就農祝い金

就農祝い金50万円を支給します。

対象:新規就農者または農業後継者で5年以上就農意思のある18歳以上65歳未満の方

俳優・田中要次の生家に住める!?

TVドラマ『HERO』で一躍有名になった俳優・田中要次氏は木曾町(旧木曾福島町)出身ですが、ご自身の生家を改築し「田舎暮らし体験」できる場として提供しています。詳しくは木曾町役場までお問い合わせください。



最高の田舎暮らしがあるヨ!

◀ 詳細は、左記相談窓口までお問い合わせください。

御嶽山麓の高原で、 こだわりの椎茸栽培

移住者の
お話し



池上 達雄さん

京都府出身。木曾町開田高原に移住しかれこれ40年。「開田高原にこの味あり」と求められる美味しい椎茸栽培をご夫婦で続けている。

御嶽山が裾野をひろげる開田高原に池上さんが移住してきたのは、今からおよそ40年前。今でこそ多くの移住者も暮らす開田高原ですが、旧開田村だったその頃、移住者は珍しい存在でした。

「その数年前に赤軍派によるあさま山荘事件が起きていて、外からやってきて山の中に住み始めた自分はきっと怪しまれていたんだと思います。駐在さんが何度も「免許証見せてくれっ」て来てね」と苦笑しながら懐かしみます。

当時村で唯一椎茸栽培をしていた人からノウハウを学び、栽培用の原木も分けてもらい、また住む場所、栽培をする土地も村の人から貸してもらい…と、来た当初から親身になってくれる人達の存在が、池上さんの定住を支えてくれたようです。

椎茸栽培は基本的には温暖な場所が適地。標高1200mという高冷地での栽培は全国的にも珍しいとのこと。当然苦労も多かったそうです。しかし、この場所だからこそその美味しい椎茸を作ろうと

幾星霜重ねた努力が報われないはずはありません。平成22年と平成27年の2回、池上さんご夫婦が栽培した椎茸は見事「農林水産大臣賞」に輝きました。

「椎茸栽培の事だけ考えれば、本当はもう少し条件の良いところでやれば色々違うこともできたかなとは思っています。でも、開田の土地も人も好きで生きてきたのだから、ここで、自分なりにこだわりたいだけを作っていきますよ。」

今椎茸栽培は、整えられた環境で人工の培地に菌を打つ「菌床栽培」が主流。しかし池上さんは自然の環境を生かした「原木栽培」にこだわります。

「見た目が同じでも、椎茸がじっくり育つから旨味が全然違います。でもまだ道半ば、椎茸栽培は奥深いからなかなか究められないです」

池上さんが開田移住で身につけた開拓精神は、いまだ衰えることはありません。



おうたきむら

王滝村



人口:778人
387世帯
(平成30年1月1日現在)
面積:310.82km²



木曾の象徴・霊峰御嶽山の麓。 郷土色豊かで、のどかな風土。

霊峰木曾御嶽山(標高3,067m)に抱かれ、その裾野には日本一のヒノキ美林が広がり、流れ出る水は、はるか南西に広がる濃尾平野を潤しています。気候は冷涼で夏は別天地です。村の面積の96%が森林であり、豊かな森と水、澄みわたる青い空、かけがえのない美しい自然とともに、人の絆で固く結ばれた村です。



御岳湖より王滝村中心部を望む 中央奥に見えるのが「御嶽山」

生活交通環境



主な交通手段は車です。近隣の町村を結ぶ路線バスが運行しています。
最寄りのJR駅 木曾福島駅(木曾町)

移住相談窓口:王滝村役場 村おこし推進課

TEL 0264-48-2001 (代表) FAX 0264-48-2172

〒397-0201 長野県木曾郡王滝村3623

<http://www.vill.otaki.nagano.jp>



カヌー体験もできる 絶景「自然湖」



夏場はキャンプに訪れる方も多い

定住者・移住者への支援事業など

●ギークハウス信州王滝

テレワーカーを受け入れる拠点として古民家を活用した食住一体型のギークハウスを整備。コワーキングスペースには住み込みが可能で通勤時間がゼロの静かな環境で働けます。

●おうたき寺子屋

学校法人信学会と連携してギークハウスのICT設備を活用した放課後学習塾を開設。ipadなどで信学会のコンテンツを用いた授業を受講し都市部と変わらない環境教育を提供します。

●おうたき保育園保育料無料

子育てにかかる経済的負担を軽減するため、3歳以上児(王滝村在住保護者)を対象に月額保育料が無料です。

●王滝小中学校給食費無料

王滝村在住、王滝小中学校在籍の児童生徒の保護者が負担する学校給食費が無料です。

← 詳細は、左記相談窓口までお問い合わせください。

やっと辿り着いた牧場：
村の人に感謝です。



宮澤 博さん

松本市出身。2008年、王滝村の山中で「宮澤牧場」を起業、毎朝夕の搾乳等約30頭の乳牛と生きる酪農家。

「放牧酪農をやってみよう。」県内では珍しい搾乳・育成牛の放牧を取り入れた経営を王滝村で行っている宮澤博さんは、南安曇野農業高等学校在学時から酪農家を目指していました。帯広畜産大で学んだ後、道内やカナダの牧場で働きながら学び、酪農家になる夢を膨らませてきたそうです。その後、地元の友人の牧場で働きましたが、独立を決意しました。

放牧酪農には土地が必要です。県内はもとより、群馬・栃木・福島…各地にその土地を探した宮澤さんですが、なかなか見つかりません。たといいい場所があっても、よそ者で信用が得られない事等を理由に牧場開業を断られてしまったことも。

5年の月日が経ちほぼ諦めかけていた頃「ダメもと」で問い合わせた王滝村に、かつて牧場として使われていた土地があることが判明。水と電気が賄える等好条件も揃っていました。ここが夢の場所かも!…ただ、「住民説明会」というハードルがあります。過去の苦い経験を思い出しながら説明会

に臨みました。案の定、宮澤さんの説明を聞き終わった後、一人のお爺さんが手を挙げたそうです。やはりきたか…覚悟した宮澤さんの耳に届いたその人の言葉は、その後宮澤さんにとって忘れられない言葉となりました。

「酒は一日三合まで。体に気をつけて頑張ってください。」

嬉しくて思わず涙が込み上げてきたというその日から10年…苦勞しながら整備し、さらに自らの手で開拓してきた牧場で、現在30頭ほどの元気な乳牛が飼育されています。

「王滝は山奥のどん詰まりにある村。どこかへ行く途中で立ち寄るような場所ではありません。だからこそ、ここに来なければ手に入らないものが作れば…いつか6次産業化で微力ながら地域に貢献していけたらうれしいですね。」

宮澤さんの夢は、今、王滝村の将来をも見据え、さらに広がりを見せようとしています。



木祖村



人口:2,803人
1,028世帯
(平成30年1月1日現在)
面積:140.50km²

命を育む木曾川源流の地。 都市部へのアクセスも良好。

木祖村は周囲を2,000m級の山々に囲まれた典型的な山村です。村の中心部には木曾川が北から南に流れ、村全体が木曾川源流の里として、豊かな自然とともに生活が営まれています。

集落と田畑が一体となった季節感あふれる里山の原風景を残す菅地区、笹川沿いに広がる歴史ある農村風景が特徴的な小木曾地区、旧中山道の木曾十一宿のひとつである藪原宿を中心に、お六櫛の生産で栄えた藪原地区の3つの地区が主となり構成されています。



木祖村全景



主な交通手段は車です。村内を巡回するコミュニティバスが運行しています。
◆東京都新宿行き的高速バスが1日2往復運行中。最寄りのJR駅「藪原駅」

移住相談窓口:木祖村役場 総務課
TEL 0264-36-2001 FAX 0264-36-3344
〒399-6201 長野県木曾郡木祖村藪原1191-1
Email kizai@kisomura.com
<http://www.vill.kiso.nagano.jp>



藪原神社例大祭の獅子舞



やぶはら高原スキー場

定住者・移住者への支援事業など

●結婚・子育て応援サイト

村民のみなさんの結婚から子育てまでを一貫して支援し、より豊かで安心して笑顔で過ごせる地域づくりをめざすためのホームページです。

<http://kiso-hughug.com>

●木祖村結婚支援事業 「源気出会いサポートセンター」

村内、郡内の独身者を対象とした結婚相談や紹介業務、出会いイベントの機会の提供を行うために、行政と民間が連携して結婚支援事業を行う組織として開設しています。

●補助金・奨励金制度

3年以上木祖村に住民登録のない方が村内に住宅を構えた場合に、
①水道料金を1年間補助します。
②新築や購入によって住宅を取得された場合、移住奨励金として50万円が支給されます。

●その他

発達障害などの早期発見やその後の長期サポートとして、保育士が間に入り、保育園から小学校、中学校と密に情報交換をして長期的な支援を目指しています。

← 詳細は、左記相談窓口までお問い合わせください。

“優れた観光”なんですよ。
地元の人が愉しめてこそ



井出 英明さん

地域おこし協力隊員として木祖村役場に籍を置き、3年間の活動を終えた後、村に定住、現在(一社)木祖村観光協会に勤務中。

井出さんの趣味は渓流釣りです。「近所の方がよく釣れる穴場を教えてください」と嬉しそう。「あなたが釣るから沢に魚がいなくなっちゃうよ」なんて冗談で笑いながら地区の人たちと酒を酌み交わすのも、住民として馴染んでいくコツかなと話してくれました。

出身は福岡県。地域おこし協力隊員として井出さんが木祖村に始めてやってきたのが2014年でした。

「仕事は観光振興の手伝いでした。他所から来た者の目線を活かし、自分が困っていることから取り組んだらどうだろうと、まずバスマップを作りました。バス停の場所や時刻表がわかりやすくなれば、地元の人も便利ですし、観光客にも使ってもらえますから。」

その後春の「桜案内マップ」や秋の「紅葉案内マップ」なども、協力隊員の仲間と共に作成し、地域内外で好評を博しています。

暮らしにも楽しみが増え、村の観光をPRする業務にも幅がでてきた3年目、協力隊員としての任期満了まであと半年と迫ってきた頃、期せずして木祖村観光協会が一般社団法人化され、新たな職員が必要に…井出さんは木祖村への定住を決めました。

「ある人が講演で、“地元の人が楽しくない観光は観光客も楽しくはない”と話すのを聞いて、なるほどなって思いました。」

良い意味での“ヨソモノ”的視点を持つ井出さん。これからはそこに“ジューミン”としての視点も加わります。そんな井出さんだからこそ見つけられる木祖村の魅力を、“地元の人も楽しめる観光”として発信していきそうです。

とはいえ、「無理をせず生きていきますよ」と井出さん。太公望の腕も磨きながら、野菜を育てたり、それを料理したりと、やりたいことも沢山あるこれからの移住ライフに胸を膨らませています。



私はこれで木曾を選びました。

木曾にいらっしまった移住者の皆さんに木曾の魅力を聞きました。

「ズバリ木曾の魅力は何ですか？」

木曾を移住先として選んだ子育て世代のママさんと地域おこし協力隊の皆さん12名の方々に聞きました。

暮らし・風土の快適さ

- 脈々と受け継がれる昔ながらの暮らしがある
(都会では忘れかけている大切なものが息づいている)
- 心地よい毎日を過ごせる
(豊かな自然、冷涼な気候、静寂、あたたかいコミュニティ等)
- 恵まれた子育て環境
(自然に抱かれながら地域で支える子育て)

仕事・自己実現の場

- 世界水準の特産物の生産に携わる
(すんき、木曾馬、木工品、地酒等)
- 自然を相手に糧(かて)を得る
(林業、御嶽はくさい等)

自動車部品や
電子部品などの
製造業も!

多様な価値観の受け皿

- 風潮に流されない本物がある
(山の恵み、木の文化、街道・古道の佇まい、美しい星空等)
- 歴史・伝統のある人々の営みに触れ合える
(宿場、郷土料理等)
- 都会ではできないここにしかない体験が待っている
(祭り、木工等)

ロケーション・アクセス

- 都市圏のお膝元
(都市圏から近く気軽に足を伸ばせる基幹交通がある)



木曾への移住に興味を持たれた方は
各町村役場または以下までお問い合わせください

長野県木曾地域振興局 企画振興課 ☎0264-25-2212

mail / kisoichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp

ホームページ / <https://www.pref.nagano.lg.jp/kisoichi/kisoichi-somu>